

2020 年度 CERI クロマトグラフィー分析賞

本賞は、(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会が「液体クロマトグラフィーを利用した研究分野で優秀な研究成果を挙げた者に授与する」と規定する褒賞であり、(一財)化学物質評価研究機構 (Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan、CERI) の協力を得て 2018 年度より運用を開始した。2020 年度は、本年 8 月末日を期限として候補者の推薦公募を行った。期日までに提出された候補者の推薦理由書、研究業績等を基に、選考委員会 (2020 年 9 月 25 日) で審議した結果、アジレント・テクノロジー(株) 所属の熊谷浩樹氏 (推薦者: 同社の滝埜昌彦氏) を受賞候補者として選出した。2020 年度液体クロマトグラフィー研究懇談会第 2 回オンライン(メール)運営委員会 (10 月 8 日-9 日) において、選考委員長より上申された上記結果を協議した結果、熊谷氏への授賞が承認された。

熊谷氏の研究業績名は、「HPLC システムの高機能化による分析ラボの効率向上」である。熊谷氏は、流路切り替えバルブを組込んだ HPLC システムを自動メソッド開発システムや、マルチメソッドシステム、2 次元 LC システム等種々のアプリケーションに応用する事により、HPLC 分析の効率が向上する手法となる事を示した。特に、2 次元 LC では、マルチハートカットシステムや 1 次元目/2 次元目間の移動相の不適合性をオンラインで緩和するバルブシステムにより、2 次元 LC の利用範囲が広がる事を立証した。又、PDA 検出器のリニアリティーレンジを大きく拡大する手法や、HPLC システムのエミュレーション技術を用いて異なる機種間でのメソッド移管を容易にする手法等が、HPLC 分析の効率化と信頼性向上に貢献する事を具体的に示した。

この様に、熊谷氏は高機能化された HPLC システムを例会等で数多く紹介し、これらの手法が分析ラボの効率化に繋がる事を HPCL ユーザーに広く浸透させた点は、LC 懇の設立理念に沿う研究姿勢として高く評価された。これらの研究業績に加え、熊谷浩樹氏は LC 懇の中核である運営委員として宿泊型研修会、研究発表会などの現地世話人を務める等、LC 懇内での精力的な活動を通して多大な社会的貢献を果たしている実績も、CERI クロマトグラフィー分析賞授賞に相応しい人物と評価された。

[液体クロマトグラフィー研究懇談会・委員長 中村 洋]